

1

The Editors

医の実践

■ 21 世紀における医師

医師になること以上に、重大な機会が人に与えられ、責任や義務が課せられることはないだろう。病人の治療にあたる医師には、熟練した技術、科学知識、人間理解が必要である。医師には機転と共感と理解が期待される。なぜなら患者は、症状、徴候、機能障害、損傷した器官、情動障害の単なる寄せ集めではない。患者は人間であり、恐怖や希望をもち、苦痛の除去、助力、安心を求めているのだ。

【ハリソン内科学】1950年

本書の初版が出版された60年以上前と比べると、医療の実践は大きく変化した。分子遺伝学、分子生物学、システム生物学、分子病態生理学の登場と、新しい高度な画像技術、生命情報科学と情報技術の進歩は、科学に関する情報を爆発的に増加させ、医師が疾患を定義、診断、治療、予防する方法を根底から変えてしまった。科学知識の増加はとどまるところを知らず、ますます勢いを強めている。

電子カルテとインターネットの普及は、医療の実践や情報利用、情報交換の方法を一変させた(図1-1)。医師たちは今日、おびただしい量の科学知識を日々の診療に役立てようと粉骨砕身している。ただし、医療の究極の目的が疾患の予防と患者の治療にあること、および、本書の初版の出版から60年以上が経過して科学はめざましく進歩したが、治療を成功させる鍵が医師と患者の間にはぐまれる深い信頼関係にあることは、依然として変わらない、という2つの点を決して忘れてはならない。

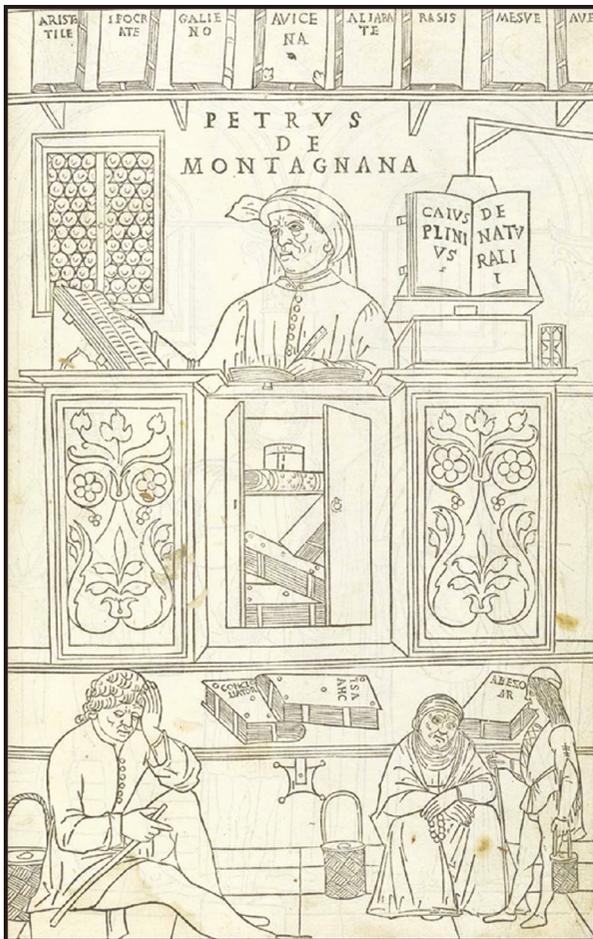
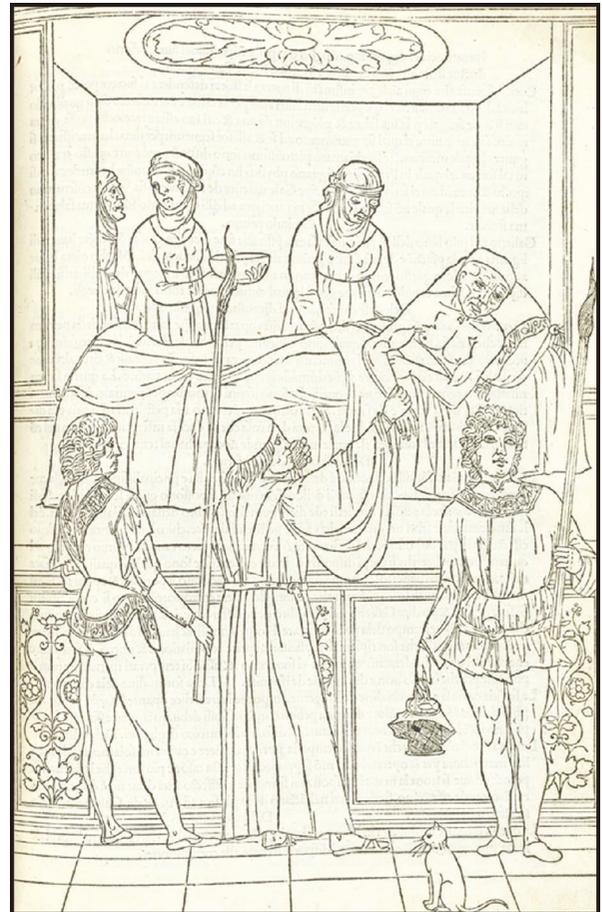


図1-1 Johannes de Kethamの木版画, *Fasciculus Medicinae* 出版された最古の図版入りの医学教科書で、ルネサンス初期の情報収集法と医療におけるやりとりを知ることができる。初版は1491年に医学生と臨床医向けに出版され、その後25年間にわたって6版が重ねられた。左図：著名な医師で



Padua大学の教官、教育的症例研究書の編者であるPetrus de Montagnanaが、古代からルネサンス初期までの医学書を調べている。右図：医師とその助手たちのケアを受けているペスト患者。(出典：U.S. National Library of Medicine)